

日本原子力学会 第 118 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2020 年 8 月 6 日（木）13:30～16:00
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、伊藤委員、嶋田委員、菅原委員、高木委員、
土田委員、手柴委員、中野委員、（委員 12 名中 10 名出席）
藤澤特別委員 オブザーバー 日本原燃 金谷氏（委員候補）

4. 資 料：

- 倫 118-1 前回議事録（案）
- 倫 118-2 金品授受問題に係る見解表明について
- 倫 118-3 次回倫理規程改定に向けた検討について
- 倫 118-4-1 2020 年秋の大会 倫理委員会企画セッション
- 倫 118-4-2 2020 年秋の大会倫理委員会企画セッション予稿案

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 118-1 に基づき説明があり、一部脱字を修正の上、承認することとした。
なお、金谷委員候補の理事会承認手続きを速やかに進めていく。

(2) 金品授受問題に係る見解表明について

大場委員長から資料 118-2 に基づき、これまでのメールベースでのやり取りにより内容については議論が収束していること、本日の委員会で内容について実質的な承認を得て、委員会後、あらためてメール審議により採決をしていく方針が示された。

これに対して、本日の委員会で採決をとるべきではないか等の意見があり、議論を行った結果、過去の倫理委員会の意見表明の際も同様な手続きを踏んでいること、本日欠席の委員も含めて今回も委員全員の意思を確認しておきたいとの説明が委員長からあり、提案の手続きとしていくことを了承した。内容についても異論はなく、了承された。

見解の公表方法については HP 掲載と学会誌への掲載としていくことがすでにメールベースでのやり取りにより前回委員会までに了承されており、HP 掲載は神谷幹事、学会誌への掲載は大場委員長が担当することとした。

(3) 次回倫理規程改定に向けた検討について

資料 118-3 に基づき、各 WG リーダー（WG1 手柴委員、WG2 伊藤委員、WG3 嶋田委員、WG4 金谷委員候補）から検討状況について説明があり、議論を行った。

主な議論は以下のとおりで、次回委員会に向けて、引き続き各 WG で検討を進めていくこととした。また、メールベースでも各委員からのコメントを吸い上げていくこととした。

- ・前文：「会員、非会員を問わず」というフレーズは、当該箇所のもとに「原子力に関わる個人および組織が」とあるのでなくても通じるのではないか。
- ・手引 1-1：1F 事故後に学会の定款が見直されているので、定款での用語の使い方との整合性も確認した方がよい。
- ・手引 1-4：信頼を得ることが安全を高めることにも繋がる。この手引では、無条件に信頼を高めることを訴求する簡潔なものにしてはどうか。安全を高める云々は、この手引ではなくてもよいのではないか。
- ・手引 2-4：1F のトリチウムの扱いもあるので、「埋設」との表現だけでよいだろうか。1F での廃棄物について考えていないのではとの指摘が出てくる。
- ・手引 4-3：現行手引にある「常にルールの妥当性確認や改定に努め」は削除すべきではない。「防止する」ために必要な行動を謳っていると思う。
- ・手引 4-4：改定文案にある「社会の理解が深まるよう」との表現は、矮小化した限定的なことを指向していると思われる。
- ・手引 4-9：説明をして受け手に理解されたことをもって説明責任を果たしたとの考え方（定義）もある。説明責任という用語の定義に立ち返って検討してはどうか。付託（負託）との関連で、専門を有している者が社会から引き受けた付託（負託）の結果を示していくという観点で、何を引き受けているかを含めて明確にしてはどうか。

(4) 2020 年秋の大会企画セッションについて

神谷幹事から資料 118-4-1 および 118-4-2 に基づき説明があった。

予稿についてはセッション全体でのまとめ予稿とし、本日の倫理規程改定の議論を踏まえて金品授受問題に関する論点を追記し、提出していくこととした。

学会当日の進め方等について、今後具体的に準備していく。

6. 次 回：第 119 回 2020 年 9 月 2 日（水）9:30～12:00 Web 会議

以上